
父として

月織黎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父として

【Nコード】

N32270

【作者名】

月織黎

【あらすじ】

おれのお袋は奴に殺された。理由は分からない。おれは奴に復讐するため、奴の下についた。どれくらいの時が過ぎただろう。おれはついに奴を追い詰めた。おれの力は奴を上回っていたのだ。さあ、あとは引き金を引くだけ。

(前書き)

『殺し屋』と『悪魔』というキーワードをもとに書いたものです。
あとは個人的趣味。

「兇戯に等しい」

眉間に突き付けられる銃口。

「千年早い。出直してこい」

首筋に突き付けられるナイフ。

背後を奪おうが、寝首をかこうが、無駄だった。直情的に正面から攻めれば圧倒的な暴力でねじ伏せられ、策を練って裏を狙えば頭脳戦で裏の裏をかれる。

おれに殺しのノウハウを教えた男　　アルバートは、そんな男だった。

奴の行動理念は至って単純。邪魔する者は殺す。気に入らない者も殺す。気に入った者は生かし調教する。それだけ。慈悲もなければ容赦もない。おれのお袋は無慈悲にも奴に殺され、おれはたまたま、奴の気に入られたから殺されなかったというだけだ。アルバートは、そんな悪魔のような存在だった。

あの小僧は弱かった。救われないことに、自身が悪魔の子であることすら気付いていなかった。このままでは、他の異端狩りに容赦なく殺される。

だから、鍛えてやった。もとより素質はあった。何より、母を殺した私に対する憎しみがあれの背中を押していた。

今は強くなった。最早私が教えられることは何もない。これならば、これから先に待ち受ける地獄のような苦難も乗り越えられるだろう。

思えば、贖罪だったのかもしれない。異端狩りの身でありながら、悪魔の女を愛し、子を孕ませてしまったことへの。

さあ、最後の試練だ。息子よ。愚かなる父を、越えてみせるがいい。

「……さよならだ、アルバート」
静かに言って、静かに引き金を引いた。
奴はどこか、満足げな顔をしていた。
どうしてか、胸がちくりと痛んだ。

(後書き)

長編にしてみると面白いかも。一応補足で説明しますと、主人公である『おれ』はアルバートが実の父であることを知りません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3227o/>

父として

2010年10月15日23時36分発行